

奇跡の一本松

陸前高田市の約 2 キロメートルにわたって広がる海岸線には、かつて高田松原と呼ばれる 7 万本の松を擁する林がありました。この松林は約 350 年にわたって防風林として海岸を守り、自然の景観として大切にされていました。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災で発生した大津波は、わずか 1 本の松を残し、この松林を壊滅させました。被災者にとって、この「奇跡の松」は、希望と復興の象徴となりました。2012 年 5 月にこの木が枯れてしまった時、国内外からその記憶を保存するための支援が相次ぎました。岩手 TSUNAMI メモリアル（東日本大震災津波伝承館）から徒歩すぐのこの場所には、今日、もとの木の大部分を利用して作られた高さ 27.5 メートルにそびえる複製がそびえています。いくつかの研究機関で、この木（樹齢 173 年と判明しました）から採取した種子から苗木を育てることができました。これらの苗木は、後世の人々が再生した林を楽しめることを願って、他の何千本もの苗木とともに以前松林があった場所に植えられました。

付近の陸前高田ユースホステルの遺構は、津波の被害を受けた当時のままの状態で見守られています。巨大な波によって大部分が破壊されたものの、この建物が津波の衝撃を吸収したことが奇跡の木を守ったと考えられています。津波を耐え抜いた別の建物は対岸にある旧気仙中学校の校舎で、こちらもあの悲劇的な日の記憶を伝えるものとして保存されています。